

○青木香保里*

藤本尊子**

Anne Fritz***

(*市立名寄短期大学 **北海道教育大学 *** Sydney University)

目的 子どもたちの生活における諸経験の不足が指摘される一方で、情報化の進展に伴い、教育や生活における「経験/体験」をどのように総合化して価値観形成し、位置づけるかが問われている。本報告は、オーストラリア中等教育における人間の生活と科学や技術の関係に対する認識形成をめざした Design & Technology の教育内容の枠組み、視点、構造および展開等の整理を行い、今後の創造力を培うための家政教育・家庭科教育のカリキュラムを考察する基礎資料を得ることを目的としている。

方法 資料として、1) Design and Technology Syllabus Years 7-10, Board of Studies, NSW Australia (1991)、2) Design and Technology Syllabus Years 7-10, Support Document, Board of Studies, NSW Australia (1991)、3) Anne Fritz, *Design Works*, Design and Technology 7-10, McGraw-Hill Book Company (1994)を用いる。なお本報告では通常の資料入手方法に加え、インターネットの利用による入手を行っている。

結果 本報告のキーとなる概念は教科書のタイトルにある“Design”および“Work”に集約される。ものごとをデザインする一連の学習を通して、課題解決に必要な知識と技術の分析と総合が螺旋的に繰り返され、認識が高揚される。生徒自身が諸場面において考え取り組む多種多様な活動(Workと称する)がスキルの獲得や創造性の発揮に関与する。課題設定や問題解決のプロセスが、人間や生活や事物・事象、また、それらの関係性に対する批判的かつ創造的視点を生みだし、主体形成に関与する。教育内容としてプログラムされているのは、生徒が探究し定着をみせる知識や技術の獲得と併せて、意思決定のスキルや様々なクラフトのスキル、科学の多岐の分野にわたる知識の基礎、価値認識の形成等であり、これらが個々の学習に反映する。“Design”“Work”の活動が位置づくことで、何を学習し、また決定の修正や今後の課題等が意識化され、批判的に振り返る能力や判断力等が次第に高められ、クリエイティビティが形成されていく。